

1、イノシシ対策について

2月12日、猪博士として活躍している仲谷淳さんに、嵐山町十三間沼、千手堂、遠山、杉山城跡をイノシシ生息の視点から見ていただきました。仲谷さんのお話しでは、嵐山町周辺の埼玉県東部の丘陵地帯は、茨城県内部や千葉県北部とともに、日本有数の獣害地域（農業被害と環境被害）になるのは、間違いないということです。地域的には遠山は、共存地域で、西日本のはやりの集落全体をそれなりに囲う対策が有効。その一方で、イノシシの生息地を分断化している地域は、取り除くのがよい（空白地維持戦略（排除戦略））。イノシシが増えない早い段階で着手するのが大切ということです。杉山城跡はイノシシにはよい居住地になる予測です。早い段階で予防策を具体化することで、農業被害だけでなく、横断歩道をイノシシの親子と人間が一緒にわたる、イノシシによる交通事故などを防ぐことができます。

- (1) 現状で把握している地区別生息状況
- (2) 今、行っているイノシシ対策と評価
- (3) 子どもたちへのイノシシを含めた野生生物の教育
- (4) イノシシの生息の特徴を知る専門家の技術支援を広域連携と取り組み
- (5) イノシシ対策特区へ

2、公文書保存について

現存する公文書や写真類のアーカイブ化についての考えを聞く

3、今後の ICT 活用について

- (1) 行政でのペーパーレス化の取り組みは。
- (2) 災害対策として、被害状況把握・行政との情報共有について
- (3) 福祉政策としての弱者への対応
- (4) 民生委員・区長の ICT の活用による地域把握と情報共有について、

4、広域行政での住民サービスの対応について

一部事務組合の住民サービスの在り方で、比企広域組合では、新計画では火葬炉は建設するが、葬祭に係る施設は、財政上、新築しないというテレビ報道があった。一方、埼玉資源循環組合では利用者予測が不明な足湯・温水プール・直売所が予定されている。住民の希望と将来的負担について、広域行政の副管理者としての立ち位置を聞く

5、太陽光パネルによる発電量の把握について

町内での太陽光パネル設置者は年々増えている。が、発電量を知ることが現状では難しい。そのため、10KW以上のパネル設置については、固定資産税の減価償却税を課税すること

ができ、発電量を把握できる。以下を問う

- (1) 現状での太陽光パネル 10KW 以上の課税状況
- (2) 無申告者についての対応

6、嵐山町のごみ対策について

埼玉中部資源循環組合でのごみ焼却は、課題が解決できないので反対の立場で質問する。

- (1) 埼玉中部資源循環組合へのごみ収集運搬手続きについての進捗
- (2) 生ごみ、剪定枝等の分別収集の考え方